

トマト栽培現場で取得する各種データの栽培管理への利用法の開発と改良

○実施期間：令和4～6年度

○担当部署：野菜部

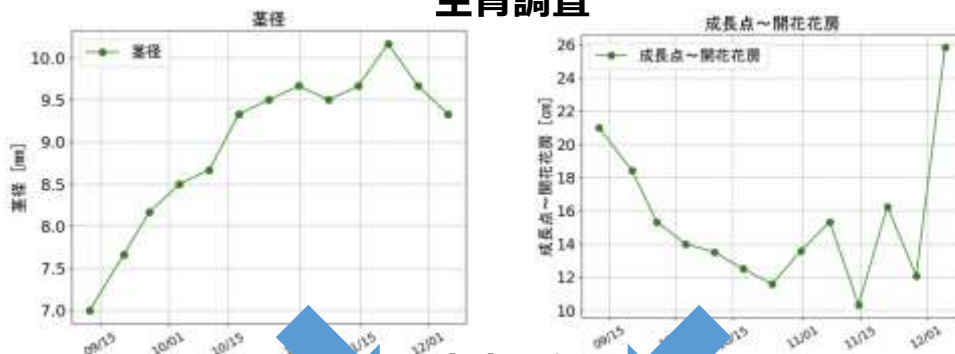
○区分：地域密着型研究・受託（戦略的スマート農業技術等の開発・改良）

○研究内容

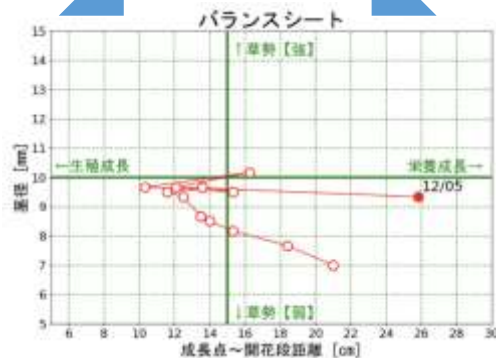
トマトの生産現場においては環境モニタリングが進み、温度、CO₂濃度などの環境データは、物質生産を高める環境になるように各制御装置に活用されています。一方、葉面積、茎の太さなどの生育データは、十分に活用されていません。

そこで、栽培現場で取得した生育データからトマトの草勢、生育バランスを評価し、安定生産に適した葉面積管理、温度管理などを行う制御方法を開発し、改良を行います。また、農研機構で開発する供給品質予測モデル構築に必要な各種データの収集、提供を行います。

生育調査



生育評価



葉数制御

生育データを活用した高収量・高品質トマト生産